

信州大学国際科学イノベーションセンターの概要

【センターについて】

信州大学国際科学イノベーションセンターは、文部科学省が公募した「地域資源等を活用した産学連携による国際科学イノベーション拠点整備事業」（平成 24 年度）に採択され、国の支援を受けて設置されました。

同事業は、産学官が一つ屋根の下に集い、10 年後を見通した革新的な研究開発課題を特定し、異分野融合体制で取り組む「場」、すなわち「国際科学イノベーション拠点」を整備することを目的としています。同事業は、各地域の資源等を柔軟に活用しつつ、新たな産業や雇用を創出するため、革新的なイノベーションを創出するプラットフォームをわが国に整備する取り組みとも意義付けられています。

さらに、信州大学などが応募した『世界の豊かな生活環境と地球規模の持続可能性に貢献するアクア・イノベーション拠点』は平成 25 年 10 月、文部科学省および科学技術振興機構が推進する「革新的イノベーション創出プログラム (COI STREAM)」の一つ、センターオブイノベーション (COI) プログラムのサイトに選ばれ、国の支援による研究がスタートしました。

世界人口の増加に伴い、生活・生産活動による水の汚染が急速に拡大しています。信州大学は、こうした問題に対し、得意とする炭素材料に関する研究開発成果と、わが国のものづくり技術を駆使し、①革新的ナノカーボン膜による高効率な水再生処理手法の確立、②耐久性に優れかつ軽量・高強度な構造材の創製、③安心・安全な造水・水循環システムの構築——の実現を目指しています。

【センターの特長】

■一つ屋根の下でのオープンイノベーション

信州大学をはじめとする研究機関と関連企業の研究者が、個々に机を持たないフリーアドレスオフィスに集い、オープンイノベーションの創出を目指します。

■成果を紹介する展示コーナー

アクア・イノベーション拠点の概要や研究成果がわかる展示コーナーを整備し、日常的に情報発信を行います。

■ワークショップスタジオとセミナースペース

未来志向の対話型ワークショップ(フューチャーセッション)を通じ、イノベーションにつながる革新的課題を特定します。セミナースペースは成果発表会などが開催できます。

■測定・分析評価設備と数値解析設備

各種の汎用測定・分析評価設備を完備した実験室やスーパーコンピュータシステムを用意し、参画機関による共同利用やレンタル利用ができるようにします。

■最先端の環境配慮技術

太陽光発電，燃料電池，地下水熱を利用した融雪などの環境配慮アイテムを装備し，低炭素社会の実現に貢献します。

【建築概要】

建物名称：信州大学国際科学イノベーションセンター

工事場所：長野県長野市若里 4-17-1（信州大学 長野（工学）キャンパス内）

構造，規模：鉄骨造，地上 7 階，地下 1 階

延床面積：10,247 平方メートル

完成時期：平成 27 年 3 月

基本構想●信州大学

デザイナー・アキテクト●橋本佳男研究室(総括)，寺内美紀子研究室（意匠），杉本渉研究室+高橋伸英研究室（環境・エネルギー）

設計●信州大学環境施設部，教育施設研究所（意匠，構造），森村設計(設備)

設計協力●東京工業大学伊原学研究室+施設運営部（エネルギー，設備）

施工●戸田建設(建築)，ダイダン(空調・衛生)，栗原工業(電気)



2015年3月末に竣工した信州大学国際科学イノベーションセンター